

岡山の美術 特別展示

# 衣笠豪谷

Kinugasa Gōkoku:  
A Retrospective



衣笠豪谷(豊肴萬俎旨酒千鐘図)(部分) 1892

2019年11月8日|金|—12月15日|日|

開館時間 | 9:00—17:00 ※入館は閉館の30分前まで。11月29日(金)は19:00まで開館。

休館日 | 月曜日 ※11月25日(月)は特別開館

会場 | 岡山県立美術館 2階展示室

観覧料 | 一般 350円 大学生\*250円 65歳以上\*170円 ※20名以上の団体は2割引

※キャンパスメンバーズ学生\*、高校生以下の方\*は無料です。\*年齢などを確認できる証明書をご提示ください。

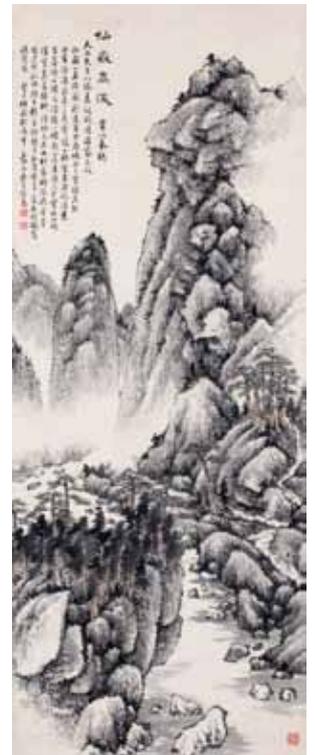
・11月14日—12月1日は特別展「第66回日本伝統工芸展岡山展」の観覧券でも、本展を観覧することができます。

主催 | 岡山県立美術館 助成 | 公益財団法人 花王 芸術・科学財団

後援 | 岡山県教育委員会、倉敷市教育委員会、岡山県郷土文化財団、公益社団法人岡山県文化連盟

beyond  
2020  
がんばろう 岡山!  
—復興へ心づなげで—

岡山県立美術館  
OKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



胸中の深山幽谷、花々の間に戯れる鶏、陽光に満ちた倉敷の風景、瀬戸内の豊かな海の幸——これらは全て、明治前期に生きた倉敷出身の南画家の作品です。彼の名は衣笠豪谷<sup>きぬがさ ぎょうこく</sup>。画家のほか、官僚としても活躍しました。豪谷は、鎖国の解除後きわめて早い時期に清国へ渡って精彩な見聞録を残しており、近代日中交流史のうえでも注目すべき人物です。

現在では知られざる画家となった豪谷ですが、詩情をたたえた山水や花鳥はもとより、身近な風景を見つめた郷土愛のにじむ作品群は、今なお褪せない輝きを放ちます。本展は、衣笠家伝来の新出資料を交えて、画業を中心にその生涯を通覧する初めての回顧展です。



**衣笠豪谷**（きぬがさ・ぎょうこく 1850-1897）現在の岡山県倉敷市白楽町生まれ。明治7（1874）年、25歳（※数え年）で清国に渡航して文人墨客と交流し、日本政府団に加わって産業調査に従事する。翌年の帰国時には水蜜桃の苗木をはじめとする多くの物産を持ち帰り、勸農局などに勤務して大陸産業の移植に尽力した。官僚として働きながら龍池会や東洋絵画会に参加するほか、内国勸業博覧会への出品を重ね、画家としての名声を高める。43歳で退官した後は倉敷と東京を行き来し、旧居で地元の名士らと交誼を結びながら画作をおこなうほか、碑刻のための書の依頼をこなすなど多才を発揮した。東京では日本南画会の発起人の一人として南画の振興に努める。画業の最盛期であったこの頃病に冒され、東京都牛込仲町の自宅で歿した。享年48。谷中天王寺に葬られた。

豪谷所用印「酒後耳熱」印影▶



- 1.《備中倉子城図》(部分) 1892 倉敷市立美術館
- 2.《芭蕉に鶏図》1896 岡山県立美術館
- 3.《牧牛之図》1896 野崎家塩業歴史館
- 4.《夾竹桃図》(写生画帖より) 1895
- 5.《仙峯春色図》1894
- 6.《仙嶽高深図》1893

#### □ 関連イベント

講師 | 八田真理子(担当学芸員)  
※いずれも申込不要

#### フロアレクチャー

11月10日 | 日 | 14:00~14:30  
会場 | 2階展示室 ※要観覧券

#### 美術館講座

「衣笠豪谷と近代中国」  
11月24日 | 日 | 14:00~15:30  
会場 | 地下1階講義室

#### 美術の夕べ

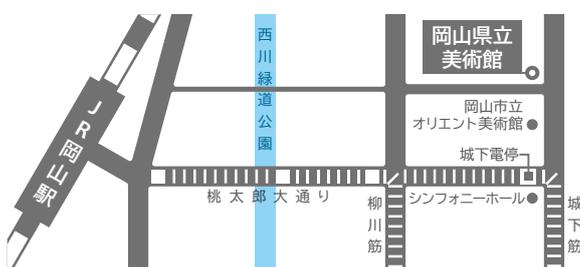
11月29日 | 金 | 18:00~18:30  
会場 | 2階展示室 ※要観覧券

#### □ 交通案内

JR岡山駅後楽園口(東口)より

徒歩: 約15分 / 路面電車: 東山行「城下」下車  
徒歩3分 / 岡電バス: 藤原団地行「美術館前」  
下車すぐ / 宇野バス: 岡山後楽園バス「岡山県立美術館」下車すぐ

※ご来館の際はできる限り公共交通機関をご利用下さい。



#### 同時開催

「氏賞受賞作家展  
炭田紗季・兼行誠吾」

「もっと伝統工芸  
中国少数民族の衣装」